




大鈴山 1386m (木曾 阿寺山
地) (積雪期ピークハント/縦走 / 中央
アルプス)

by
gekiyabu 

日程 :

2012年03月25日(日帰り)

メンバー :

gekiyabu

天候 :

雪

地図 :



WEB SERVICES BY 

標高グラフ :

コースタイム :

8:39 林道入口--8:44 ゲート--8:54 尾根に取り付く--9:12林道--9:14 林道終点--
9:39 遊歩道--9:54 檜峠--10:04 奥千本天然林--10:13 作業道--10:30 作業道を離れ
る--10:33 1310m鞍部--10:48 大鈴山--11:00 1310m鞍部--11:02 作業道--11:19
奥千本天然林--11:29 檜峠--11:50 駒鳥コース--12:10 林道入口

コース状況/その他周辺情報 :

- ・ 登山道無し。ただし直下まで遊歩道や作業道(地図に記載なし)が続く
- ・ 登山ポスト無し
- ・ 危険箇所は無いが、地形がなだらかなので読図で地形を読むのは困難

- ・冷沢沿いの遊歩道起点は、現在は「立ち入りはご遠慮ください」の標識が立っている。ただし道は立派。
- ・赤沢から東に延び1320m鞍部を越える破線は廃道化
- ・山頂北側の1310m鞍部直下までは藪漕ぎ無し。それ以降のみ笹藪ありだが雪を利用するほどではなく無雪期でも登れる
- ・山頂は樹林で展望なし

 写真 :



林道起点=赤沢自然保養林入口



うっすら積雪した林道を進む



ゲート



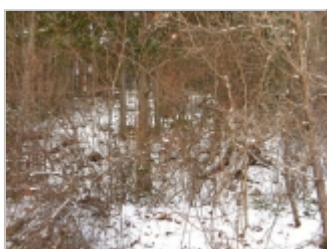
林道なのに橋が無い。増水時は渡渉不能



地形図の破線の起点となる沢。付近に踏跡皆無



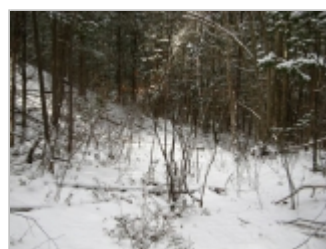
林道先に見えている右から張り出した尾根に取り付くことに



尾根取り付き。日当たりがよくちょっと藪っぽい



尾根に出るときれいな植林



これが地形図の廃道。尾根を横切る箇所



上部で地形図にない林道に



林道終点から林道を振り返



林道終点の標識

出た



林道終点から作業道が続く

る



最初の沢から先は作業道が薄くなる



まだ作業道は続く



ここは道が明瞭



目印も続く



遊歩道に合流。江戸時代に大規模伐採した場所らしい



遊歩道は立派



水源。ただし水質調査でN G(PHが酸性)だったようだ



水源



小さな峠の標識



公園内のルート図。かなり参考になった



尾根を巻く遊歩道を進む



遊歩道の突端が奥千本天然林。でも実際は昔の植林



尾根に出ると作業道出現

小尾根を登る



笹も登場するが刈り払われている

藪っぽい個所も少しだけあり



1310m鞍部西側直下の作業道



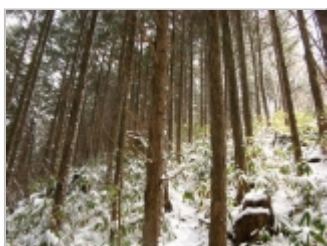
写真30の場所から東の鞍部を見上げる。薄い笹藪



1310m鞍部



1310m鞍部から南を見上げる



傾斜が緩いうちは笹が薄い尾根東側を登る



1360m峰



大鈴山山頂。山頂標識や目印皆無



合体木



冷沢沿いの遊歩道起点



冷沢沿いの遊歩道起点の東屋



写真39の場所で駒鳥コース
に合流



駒鳥コースを下る



森林鉄道を横断。踏切は無い



森林鉄道



最奥の駐車場



手前側の駐車場は雪が消えていた



休養林内案内図



休養林内案内図その2

感想／記録 : (by gekiyabu)

概要

先週の阿寺山に引き続き赤沢自然休養林より往復。当初は赤沢から東に延び1320m鞍部を越える破線を使う予定だったが廃道化していたため、臨機応変に林道や作業道、遊歩道を利用。大鈴山北側の1310m鞍部直下までは藪漕ぎ無しで来ることができ、そこから山頂までは薄い笹藪を漕いだ。残雪は当日降った新雪のみで雪のメリット皆無であり、無雪期にも簡単に登れる。山頂は樹林に覆われ展望なし。

先週は阿寺山に登る起点として赤沢自然休養林を選んだが、ここから東にもピークがある。大鈴山(1386m)というこれまたマイナーな山で、ネット検索では1件だけ引っ掛かったが逆側(東側の大桑村)の林道から登っていた。藪については触れていなかったが、微妙な高さか。ただ、この標高なら激藪まではいかないと予想した。

登路であるが登山道があるとは思えず、一番近い場所を通っている地形図の破線を利用することにする。この破線は大鈴山北西部の1320m鞍部を越えており、1400m峰を

登って1310m鞍部に下ってから山頂に至る。破線が本当に存在するのか不明だが、この付近の地形はなだらかで、登りはいいが下りで計画通りの尾根を正確に辿るのは難しく、廃道でもいいから道形があった方がルート判断材料になると考えた。

赤沢自然休養林につながる車道は部分的に真っ白だが深い所でも積雪は2,3cmで問題なし。先週凍っていた部分は半分程度凍結が消えていたが、まだ残った部分もあった。駐車場は車はゼロ。日曜日は工事もやっていないようだ。雪が舞う中、支度を整えて出発。今回は緩やかな地形なのでアイゼン、ワカンとも不要の可能性が高いが念のため持参した。さすがにピッケルはやめておく。

駐車場入口から左に分岐する林道に入ると積雪で真っ白。この林道は地形図に出ないが、たぶん沢沿いに延びているのだろうと辿っていく。少し行くとゲートが登場、その先はダートで沢に向かって下っていき、橋は無く堰堤のような広くなったコンクリートの上を水が流れている。今は登山靴の甲くらいの水深なので急ぎ足で渡れば浸水しないが、降雨後の増水時は歩きで渡るのとは不可能だろう。

林道は沢の左岸に移り、方位磁石で方位を確認しながら進む。というのも破線入口の谷が判別できるか不安があるため、沢の方向が北東から北に変わるところが沢の出合のはずだ。周囲の地形にも目を配りつつ進み、川の流れが北に曲がったところで右(東)から小さな沢が合流。ここが破線の起点らしいが、周辺を見渡しても沢沿いは矮小な灌木藪で道は全く無い。破線は廃道化してしまったようだ。計画が最初からコケてしまったがこれも想定内の範囲内、破線北側の尾根を上がることにする。法面は急で取り付く場所を選んだが、尾根に上ると背の高い檜植林で灌木藪は消えて歩きやすくなった。あとはこの植生がどこまで続いてくれるかだ。地形図を見て分かる通り、この付近の地形はなだらかで本当に狙った尾根に乗っているのか判断に苦しむところだが、曲がり具合からして今回は大丈夫らしい。

標高1180m付近で道らしき藪の生えた筋が登場、どうもこれが地形図の破線らしい。確かに平っぽく道のような形跡だけだ。これでは辿る意味が無いので尾根をこのまま上ることにするが、少し先が明るくなっている。登ってみると地形図に無い林道登場。ほぼ水平で南北方向に延びている。ここで考える。このまま尾根を上がって上松/大桑境界尾根から山頂に向かってもいいが、1400m峰を余分に登る必要があり体力、時間とも無駄で、できれば巻いてしまいたい。幸い、西斜面は緩斜面で危険箇所はなさそうだし、うまくいけばこの林道で大鈴山の真西まで行けるかもしれない。もし途中で林道が終わった場合は、標高1300m付近をトラバースし続ければ大鈴山北側鞍部に出られるので、そのまま横移動でいいだろう。

林道を歩き始めて数分であっけなく終点。この緩斜面では現在位置が全く把握できないが、ラッキーなことに終点に地図付きの看板が立っており現在位置が分かった。

1231m峰東の鞍部の標高約1200mだった。とりあえずはこのまま標高を保って横移動しよう。林道終点からそのまま直進するように進むと薄いながら作業道があり、目印のピンクリボンが点在していた。道が薄いと言っても周囲に藪があるわけではなく、ここは発達した檜植林帯で地面付近の藪は皆無なのでどこでも歩ける状態であり、道があっても無くてもあまり関係はない。時々道が薄くなる個所もあるが(積雪で踏跡が隠されて木の間隔で判断するしかない)、作業道は概ね連続しているようだった。標高も上げもせず下げもせずで横移動が続いた。

このまま大鈴山西側まで斜面をトラバースしようかと考えていたところで明瞭な道に飛び出した。案内看板が立っており「強度伐採跡」と書かれており、この付近は江戸時代に大規模に伐採され、その後植林された場所とのこと。木曾は昔から檜美林で有名であり、木の切り出しも盛んだったようだ。合流した道は横ではなく上を目指していた。現在地が不明であるがこれを登って標高1300mまで上ってから横移動でもいいだろうと、広い道に乗り移った。あのような案内看板があるくらいなので、これは遊歩道であった。

最初は緩やかな谷に沿って上っていき、道が右に曲がって沢を越えるところで「真清水」の案内看板があり、沢には竹の樋が設置してあった。文字通り水源地であったが、水質検査で酸性だったため飲料不敵の注意書きが立っていた。ま、実際には問題なく飲めると思う(寒くて汗をかいていないので飲んではいないけど)。

道は右に曲がって尾根を登り始め、一つの尾根を巻いて尾根南側に出るところには「檜峠天然林」の看板が立っていた。でも本当にここは天然林なのかなあ。地図が出ていたのだが等高線が無いので詳細な場所は分からないが、赤沢との位置関係でおおよその場所は掴めた。この先で遊歩道の最高地点となりその先は下るようなので、最高点で遊歩道と別れて尾根に取り付くか。

尾根南側を巻きながら進んで標高はほとんど変わらず、やがて大きな標識が登場、「奥千本天然林(標高1240m)」と書かれていた。この辺はなだらかな地形で高度が分かっても場所を特定するのは難しく、大体の場所は分かったが詳細な場所は不明のままだ。まあ、山頂の真東に近い場所だということだけ分かっていたら問題なし。とにかく標高1300mまで上って鞍部を見つければいいのか。

標識より上部は道は無いが藪も無く、まずはこの上の尾根を目指す。進むと何となく道があるような無いようなで地面には杭が打ち込まれている。それを辿ると尾根上ではなく小さな谷筋に出て道が消えて藪っぽいが、その区間も僅かで再び檜植林帯となる。間伐された斜面には一筋の道が。再び作業道の登場だ。特に斜面上部は間伐された檜が積み重なり、とても横断できる状態ではない。おまけに笹も登場だ。360度全部がこんな状況だと嫌気がさすが、作業道が横へと延びているのでそれを進むしかない。

作業道だけは邪魔な間伐材が無いので歩きやすく、今まで同様にトラバースが続く。このまま進めば鞍部直下に出られそうで、無理に尾根によじる登る必要はなさそうだ。作業道をそのまま進んでいくと左手に明らかな鞍部が登場、念のためGPSで山頂位置を確認すると1310m鞍部で間違いない。

ここで道を外れて薄い笹藪に突入する。藪自体は大したことはないが新雪をまとっているので上半身から雪が付着する。上はゴアを着ているので大丈夫だがズボンは真っ白、まだ気温が低いので溶けて濡れることはなかった。

あっという間に鞍部到着。稜線を挟んで西側は笹藪、東は笹が無い地面で東側が歩きやすいのでそちらを進む。しかし東側の傾斜がきつくなると笹が生えた尾根直上に進まざるを得ない。傾斜がきついと薄い雪の下に隠れた落ちた枝や木の根でツルツルよく滑る。笹は胸くらいの高さで密度は低く、乾いていけば躊躇なく突っ込めるレベルだったので、ここは無雪期の方がいいだろう。

1360m峰を越えて僅かに下り、次のピークが大鈴山山頂だった。東側は檜植林、直上は自然林と笹で展望皆無、雪が降ったままだった。山頂標識や目印は皆無で、林業関係者以外はほとんど訪問者がいないようだ。こんなマイナーな山もたまにはいいだろう。雪は降るし藪でのんびり休む場所もないし疲労も無いので、そのまま下山にかかる。

作業道に戻って奥千本天然林の標識に戻るまでは、周囲の地形を見ながら歩いたのでやっとどんなルートだったのか判明。その先も地形図と見比べながら歩き、檜峠や真清水の場所も特定できた。遊歩道を下っていくと、井出ノ小路山の途中の林道で見たような「合体木」があった。檜と榎(サワラ)がくっついたそうだが、いつ見ても檜と榎の区別がつかない。

やがて東屋が登場し、もっと広い遊歩道に合流、そこに出る場所、つまり今まで歩いてきた遊歩道の起点は木のゲートが閉じられており「これより奥については、各種保護林等の設定区域となっているため、一般の方の入林はご慮下さい」と書かれていた。立派な道だが公式には立ち入れないらしかった。知らないで歩いてしまったので許してね。

沢沿い(冷沢)に下り、森林鉄道のレールを越えて駐車場に到着。車が1台のみ。

Copyright(c) Yamareco. All Rights Reserved.

<http://www.yamareco.com/>